

11.22

第542回 定期演奏会
〈土〉サントリーホール／18時開演

The 542nd Subscription Concert
Saturday, 22nd November, 18:00 / Suntory Hall

11.24

第171回 東京芸術劇場マチネーシリーズ
〈月・休〉東京芸術劇場コンサートホール／14時開演

The 171st Tokyo Metropolitan Theatre Matinée Series
Monday, 24th November, 14:00 / Tokyo Metropolitan Theatre

指揮 尾高忠明 (名誉客演指揮者) 4ページ
Conductor TADAAKI OTAKA (Honorary Guest Conductor)

チェロ 宮田大 6ページ
Cello DAI MIYATA

コンサートマスター 小森谷巧
Concertmaster TAKUMI KOMORIYA

エルガー チェロ協奏曲 ホ短調 作品85 [約30分] 7ページ
ELGAR / Cello Concerto in E minor, op. 85
I . Moderato
II . Allegro molto
III . Adagio
IV . Allegro

[休憩 Intermission]

エルガー 交響曲 第3番 (ペイン補完) 作品88 [約58分] 8ページ
ELGAR / Symphony No. 3, op. 88 (elaborated by Anthony Payne)
I . Allegro molto maestoso
II . Scherzo Allegretto
III . Adagio solenne
IV . Allegro

[主催] 読売新聞社、日本テレビ放送網、読売テレビ、読売日本交響楽団
[助成] 文化庁文化芸術振興費補助金 (トップレベルの舞台芸術創造事業)
[協力] **アフラック** (アメリカンファミリー生命保険会社) (11/22)
[事業提携] 東京芸術劇場 (11/24)

11.28

第576回 サントリーホール名曲シリーズ
〈金〉サントリーホール／19時開演

The 576th Suntory Hall Popular Series
Friday, 28th November, 19:00 / Suntory Hall

11.29

第76回 みなとみらいホリデー名曲シリーズ
〈土〉横浜みなとみらいホール／14時開演

The 76th Yokohama Minato Mirai Holiday Popular Series
Saturday, 29th November, 14:00 / Yokohama Minato Mirai Hall

指揮 シルヴァン・カンブルラン (常任指揮者) 5ページ
Conductor SYLVAIN CAMBRELING (Principal Conductor)

コンサートマスター 長原幸太
Concertmaster KOTA NAGAHARA

モーツァルト 歌劇〈魔笛〉序曲 [約7分] 10ページ
MOZART / "Die Zauberflöte" Overture

シューマン 交響曲 第3番 変ホ長調 作品97 〈ライン〉 [約32分] 11ページ
SCHUMANN / Symphony No. 3 in E flat major, op. 97 "Rhenish"
I . Lebhaft
II . Scherzo. Sehr mässig
III . Nicht schnell
IV . Feierlich
V . Lebhaft

[休憩 Intermission]

ベートーヴェン 交響曲 第3番 変ホ長調 作品55 〈英雄〉 [約47分] 12ページ
BEETHOVEN / Symphony No. 3 in E flat major, op. 55 "Eroica"
I . Allegro con brio
II . Marcia funebre. Adagio assai
III . Scherzo. Allegro vivace
IV . Finale. Allegro molto

[主催] 読売新聞社、日本テレビ放送網、読売テレビ、読売日本交響楽団
[助成] 文化庁文化芸術振興費補助金 (トップレベルの舞台芸術創造事業)
[協力] **AIRFRANCE** エールフランス航空、横浜みなとみらいホール (11/29)

エルガー演奏の使徒による
共感に満ちた入魂の指揮

尾高 忠明

(名誉客演指揮者)

Tadaaki Otaka
(Honorary Guest Conductor)

◇11月22日 定期演奏会
◇11月24日 東京芸術劇場マチネシリーズ



©読響(撮影:青柳聡)

1992～98年読響の第6代常任指揮者を務め、現在は名誉客演指揮者。93年と97年にはヨーロッパ公演を指揮し、ロンドン、ウィーン、パリ、ベルリン、アムステルダム、プラハなど、主要都市で絶賛を博した。

1947年鎌倉生まれ。桐朋学園大学で齋藤秀雄に指揮法を師事。70年、第2回民音指揮者コンクールで第2位に入賞。72年、オーストリア政府から奨学金を得てウィーン国立アカデミーに留学、指揮をスワロフスキーに、オペラ指揮法をシュパンナーゲルに学んだ。BBCウェールズ響首席指揮者(87～95年／現桂冠指揮者)に就任、エルガーやブリテンなどのイギリス音楽を手がけた。93年にはウェールズ音楽演劇大学から名誉会員の称号を、ウェールズ大学から名誉博士号を、97年には英国エリザベス女王から大英勳章CBEを授与された。さらに99年には、英国エルガー協会から、エルガー音楽の普及に貢献したとして、日本人初のエルガー・メダルを授与されている。

東京フィル常任指揮者(74～91年／現桂冠指揮者)、札幌響正指揮者(81～86年)、紀尾井シンフォニエッタ東京ミュージカル・アドバイザー／首席指揮者(95～2000年／現桂冠名誉指揮者)、メルボルン響首席客演指揮者(10～12年)、新国立劇場オペラ芸術監督(10～14年)を歴任。現在はN響正指揮者(10年～)、札幌響音楽監督(04年～)の重責を担っており、名実ともに日本を代表する指揮者として活躍している。客演指揮者としては、国内の主要オーケストラはもちろんのこと、ロンドン響、ロンドン・フィル、BBC響、ベルリン放送響、フランクフルト放送響など、世界各地のオーケストラを指揮している。また、東京藝術大学指揮科主任教授、相愛大学、京都市立芸術大学音楽学部客員教授として、後進の指導にもあたっている。

91年度、第23回サントリー音楽賞を受賞。

我らがシェフ、カンブルラン登場
3つの「変ホ長調」に腕を振るう

シルヴァン・カンブルラン

(常任指揮者)

Sylvain Cambreling
(Principal Conductor)

◇11月28日 サントリーホール名曲シリーズ
◇11月29日 みなとみらいホリデー名曲シリーズ



©読響(撮影:青柳聡)

幅広いレパートリーを縦横に組み合わせた絶妙な選曲と、色彩感あふれる緻密な演奏で圧倒的な評価を確立している読響の第9代常任指揮者(2010年4月就任)。海外では、世界有数のオペラ・ハウスであるシュトゥットガルト歌劇場の音楽総監督を12年9月から務めているほか、クラングフォーラム・ウィーン(世界の最先端を行く現代音楽アンサンブル)の首席客演指揮者も兼任している。

1948年フランス・アミアン生まれ。81年から91年までブリュッセルのベルギー王立モネ歌劇場の音楽監督、93年から97年までフランクフルト歌劇場の音楽総監督、99年から2011年までバーデンバーデン&フライブルクSWR(南西ドイツ放送)響の首席指揮者を務めた。また、巨匠セルジュ・チェリビダッケの後任として、02年からドイツ・マインツのヨハネス・グーテンベルク大学で指揮科の招^{しょうへい}聘教授を務めている。12年秋、SWR響での長年にわたる活躍、とりわけ教育分野における数多くの創造的な取り組みが高く評価され、ドイツ連邦共和国功労勲章(功労十字小綬章)が授与された。

客演指揮者としては、ウィーン・フィル、ベルリン・フィル、パリ管、クリーヴランド管、ロサンゼルス・フィル、モントリオール響、ベルリン・ドイツ響、ミュンヘン・フィル、フィルハーモニア管、ウィーン響など、世界の一流楽団と共演している。また、オペラ指揮者としても幅広いレパートリーを誇り、ザルツブルク音楽祭、メトロポリタン・オペラ、パリ・オペラ座などに数多く出演している。

録音も多く、中でもSWR響との《メシアン管弦楽作品全集》は世界中で高く評価されている。読響ともこれまでに《幻想交響曲／クーブランの墓》《ペトルーシユカ／フランク：交響曲》《第九》のCDが発売され、好評を博している。

チェロの若きスーパースター
愛に満ちたエルガーを奏でる

宮田 大

Cello
Dai Miyata



©Yukio Kojima

1986年生まれ。宇都宮市出身。音楽教師の両親のもとで3歳からチェロを始め、9歳から各種コンクールに挑戦し、第74回日本音楽コンクールを含む全てで第1位を獲得するという快挙を成し遂げた。2009年には第9回ロストロポーヴィチ国際チェロコンクールで日本人として初優勝を飾った。

桐朋学園音楽部門特待生、同大学ソリスト・ディプロマコースを首席で修了。09年にジュネーヴ音楽院を卒業し、13年6月にクロンベルク・アカデミーを修了した。10年に出光音楽賞、12年にホテルオークラ音楽賞をそれぞれ受賞。

現在はオーケストラとの共演はもとより、ソロやクレメール、バシュメット、ヴェンゲーロフらとの共演で活躍している。また、小澤征爾氏との共演がドキュメンタリー番組としてテレビで放送されるなど、常に大きな注目を浴びている。

◇11月22日 定期演奏会 ◇11月24日 東京芸術劇場マチネーシリーズ

プログラムノート

PROGRAM NOTES

広瀬大介

ひろせ だいすけ・音楽学、音楽評論

第542回
定期演奏会

11.22 〈土〉

第171回
東京芸術劇場マチネーシリーズ

11.24 〈月・休〉

エルガー

チェロ協奏曲 短調 作品85

作曲：1918～19年／初演：1919年10月27日、ロンドン／演奏時間：約30分

人生への不安と諦念を、室内楽的な響きに託した傑作協奏曲

20世紀初頭に成功を収めるも、作曲家としては職業的訓練を積むのが比較的遅かったエドワード・エルガー（1857～1934）。高い知名度を得るきっかけとなったのは、1899年に初演された〈エニグマ変奏曲〉であり、このときすでにエルガーは42歳になっていた。20世紀初頭に成功を収めるも、第一次世界大戦期には都会の生活に疲弊し、ウェスト・サセックスのフィトルワースに屋敷を借り、ここで英気を養う。チェロ協奏曲は1918～19年、大戦末期に手がけられ、同時期に作曲した弦楽四重奏曲を演奏したチェロ奏者、フェリックス・サルモンドの助言によって完成、初演された。

全体で四つの楽章を有しており、ほとんど本格的な交響曲とも呼ぶべき体裁を

整えてはいるが、第1楽章から第2楽章にかけては切れ目なく演奏されるため、協奏曲の通例たる3楽章形式にも従っている。第1楽章冒頭におかれた短い序奏は、曲全体を支配する陰鬱な雰囲気を集約するような響きを持ち、同時に第2楽章（スケルツォ）冒頭や第4楽章の最後にも登場し、作品全体を統一するモティーフの役割をも果たす。この序奏から導かれた、おずおずとはじまる第1楽章の第1主題は、都会暮らしで体調を崩し、静養していた時期に作曲された。8分の9拍子による、引きずるような、ためらうような旋律と、室内楽的な管弦楽の響きは、みずからの音楽が向かうべき先を、あてどなく探しているかのような風韻を帯びている。

楽器編成／フルート2（ピッコロ持替）、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、チューバ、ティンパニ、弦五部、独奏チェロ

エルガー 交響曲 第3番 (ペイン補完) 作品88

作曲:1932~33年(未完)、アンソニー・ペインによって1997年までに補筆、初演:1998年2月15日、ロンドン／演奏時間:約58分

「未完」の交響曲にこだまする、作曲家と補筆者の豊穡な対話

イギリスの音楽はルネサンス期にその隆盛を極め、ダウランド、タリスなど名だたる作曲家が輩出した。ところが17世紀に起きた清教徒革命を発端とする一連の動乱によって、音楽を含む文化一般は「人を墮落させる」として弾圧の対象となる。この状況は王政復古の後もその余波を引きずり、17~18世紀のパーセル、ヘンデルの努力も空しく、19世紀においてイギリスは自国から音楽を発信する力をほとんど失ってしまった、とされてきた。

ただ、より正確に言うならば、イギリスで生み出された19世紀の音楽は、ブリテン島の外、ヨーロッパ大陸において耳目を集めることはほとんどなかった、というべきだろう。そのような中で、エルガーが19世紀末から20世紀初頭に大きな成功を収めることができたのは、大陸側、とくに交響曲の本流と見做されていたドイツで、交響曲第1番(初演:1908年)が高い評価を得たことが大きい。初演を手がけたハンス・リヒターは「当代最高の交響曲」とお墨付きを与え、イギリス内外で広く演奏されるきっかけを作った。4楽章の堂々たる規模を誇り、大編成のオーケストラも迫力・色彩感に事

欠かない。リヒャルト・シュトラウスをはじめとするドイツの音楽家たちが、イギリスの新しい才能を「革新的」という形容詞とともに受け容れたのは、ある意味当然であっただろう。

ただ、その後に続く交響曲第2番(初演:1911年)は、第1番とは異なる内省的な作品であったためか、大きな評判を勝ち取ることはできなかった。さらに、第1次世界大戦によって文化の潮流は大きく変わり、エルガーは徐々に「過去」の作曲家と見なされるようになる。20年に愛妻アリスが亡くなると、エルガーはほとんど創作意欲を失ってしまう。

エルガーの創作意欲が再び輝きを取り戻すのは最晩年のことだった。確かにチェロ協奏曲以降、エルガーが完全に完成させた大規模作品は存在しない。だが、1932年にBBCから新しい交響曲の委嘱を受けたエルガーは、徐々に作品の筆を進めていく。ロンドン交響楽団のコンサートマスター、ウィリアム・ヘンリー・リードの協力を得つつ、スケッチを書いていくが、第1楽章の冒頭部分を含む僅かなオーケストレーション、そして127ページにわたるスケッチ(現在ではIMSLPサイトでその多くを閲覧することが可

能)だけを遺して、エルガーは1934年に亡くなってしまった。

本作は、さまざまな「未完」の作品の中でも、「未完」の度合いがもっとも大きな作品のひとつであろう(その意味では、マーラーの交響曲第10番と置かれた立場がよく似ている)。1970年代にこのスケッチの存在を知った作曲家アンソニー・ペインは、独自に補筆作業を進めていた。1993年にBBCは正式に補筆を依頼するものの、「スケッチは燃やしてほしい」という故人の遺志を尊重する遺族は、この試みに反対し続けていた。ペインは比較的資料が遺されていたスケルツォ(第2楽章)だけをまず完成。2005年にはエルガーの著作権が切れることもあり、慎重な態度を崩さなかった遺族も徐々に態度を軟化させ、最終的には許可を出した。1995年以降にその他の楽章の補筆を進め、1997年には完成。BBC交響楽団によって録音され、翌98年に初演された。

第1楽章冒頭の序奏はエルガーによるオーケストレーションが17小節だけ存在する。順にハ長調→ホ長調→変イ長調→ハ長調の主和音を経る和声進行は、ブラームスの交響曲第1番における各楽章の調性配置と重なり合う。偶然の符合か

もしれないが、ブラームスに対するエルガーの何らかのオマージュと考えるのはうがち過ぎであろうか。その後即座にハ短調の第1主題へ、さらにカンタービレによる変ホ長調の第2主題へと目まぐるしく音楽は移り変わる。この第1楽章を含め、エルガー自身がスケッチにあたっ〈アーサー王〉や〈最後の審判〉(未完)など、自作の多くからそのアイディアを借りていることもあいまって、ペインはエルガーのスケッチをジグソーパズルのように組み合わせた。冒頭以外ほとんど素材の残っていない第4楽章では、エルガー自身の他作品の素材を用いつつ、その多くがペインのアイディアによって構成されている。先行するふたつの交響曲と同じく、主題のひとつに「ノビリメンテ(高貴に)」と題する、(言葉で表現するのは難しいのだが)これぞイギリス風と呼びたくなる旋律が導入され、終結部は第1楽章の主題をもとにして、コントラバス、ティンパニ、小太鼓の消えるようなピアノシシモで閉じられる。補筆には常に賛否が伴うものだが、可能な限りエルガーの意図に寄り添い、その音楽と向かい合い、作曲家と「対話」し続けたペインの姿勢はもっと高く評価されてしかるべきだろう。

楽器編成／フルート3(ピッコロ持替)、オーボエ2、イングリッシュ・ホルン、クラリネット2、バスクラリネット、ファゴット2、コントラファゴット、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、チューバ、ティンパニ、打楽器(大太鼓、シンバル、小太鼓、トライアングル、タンブリン、タムタム)、ハープ2、弦五部

プログラムノーツ
PROGRAM NOTES

飯尾洋一
いいお よういち・音楽ライター

第576回
サントリーホール名曲シリーズ
11.28 〈金〉

第76回
みなとみらいホリデー名曲シリーズ
11.29 〈土〉

モーツァルト
歌劇〈魔笛〉序曲

作曲：1791年／初演：1791年、ウィーン／演奏時間：約7分

メルヘン・オペラの幕開けを飾る軽快な序曲

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト（1756～91）が35歳の早すぎる最期を迎えたのは1791年のこと。この年、作曲家の創作意欲は著しく高まり、次々と傑作を世に送り出した。歌劇〈魔笛〉もそのひとつ。アン・デア・ウィーン劇場の支配人で、劇団座長でもあるエマヌエル・シカネーダーの提案によって作曲された。モーツァルト自身の指揮による初演では、喜劇役者だったシカネーダーが鳥刺しパパゲーノ役を演じている。大衆向けの演目によって人気を博していたシカネーダーの劇場で、〈魔笛〉は観客の心をとらえ、初演から一か月あまりで20回を超える上演回数を記録する大成功を収めた。

物語はメルヘン世界を舞台にした「ボ

ーイ・ミーツ・ガール」の枠組みを持つ一方で、秘密友愛結社フリーメイソンの思想が随所に反映されており、試練の克服、寛容の精神や同胞愛などがテーマに織りこまれている。

軽快な序曲は単独でも演奏される人気曲。冒頭および曲中の、扉をノックするような荘重な和音は、劇中の高僧ザラストロの神殿の場面で登場するもの。ゆるやかな序奏部の後、陽気で躍動感あふれる主部へと続く。

曲の調は変ホ長調。本日のプログラムは変ホ長調の作品ばかりが並ぶ。しばしば壮麗さ、荘厳さ、偉大さといった性格と結び付けられる調であり、そこから3曲に通底するテーマ性を読みとることも可能だろう。

楽器編成／フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、トランペット2、トロンボーン3、ティンパニ、弦五部

シューマン
交響曲 第3番 変ホ長調 作品97 〈ライン〉

作曲：1850年／初演：1851年、デュッセルドルフ／演奏時間：約32分

ライン河畔デュッセルドルフへの転地を契機に書かれた傑作

1850年、ロベルト・シューマン（1810～56）はドレスデンからデュッセルドルフへと転居して、音楽活動の転機を迎えた。ドレスデン時代にピアノ協奏曲イ短調や交響曲第2番ハ長調をはじめとする傑作を残したが、この地の音楽界では望みどおりの信望と友情を得られず、新たなポストを新天地に求めた。当初、ライプツィヒのゲヴァントハウス管弦楽団の指揮者などのポストを打診したものの実現には至らず、紆余曲折を経てフェルディナント・ヒラーの後任としてデュッセルドルフ市音楽監督の職務を引き受けることになった。

ライン河畔のデュッセルドルフに到着したシューマン夫妻を、市民は温かく迎えた。音楽監督の職務にはシーズンに10回、オーケストラの定期演奏会を指揮することが含まれており、シューマンは自分のオーケストラを持つことになる。

赴任して間もなく、シューマンは交響曲第3番の作曲に着手した。デュッセルドルフのオーケストラのコンサートマスターを務めていたヴァジエレフスキによ

れば、シューマンがライン川上流にあるケルンの大聖堂を訪れた際に靈感を受けたことが、この交響曲の作曲の契機となったという。作品はシューマン自身の指揮によって初演された。なお、〈ライン〉の呼称は作曲者没後に付けられたものである。

第1楽章 生き生きと 各楽章の速度標語はドイツ語で記されている。雄大な冒頭主題によって勢いよく開始される。4分の3拍子で書かれているが、この冒頭主題がヘミオラ風になっている（3拍単位のところを2拍単位で分割する）ことがリズムに変化を与え、大河の奔流を連想させる。

第2楽章 スケルツォ、きわめて中庸に 晴朗で素朴な舞曲風楽章。

第3楽章 速くなく 弦楽器と木管楽器がささやくように対話する。

第4楽章 荘厳に ケルン大聖堂で目にした枢機卿昇任式の印象が反映されているといわれる。

第5楽章 生き生きと 祝祭的で高揚感にあふれたフィナーレ。

楽器編成／フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、ティンパニ、弦五部

ベートーヴェン

交響曲 第3番 変ホ長調 作品55 〈英雄〉

作曲:1803年～04年／初演:1805年、ウィーン／演奏時間:約47分

かつてない規模で書かれた「天地を揺るがす」大作交響曲

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン（1770～1827）が交響曲第2番を書いた翌年の1803年、その弟子フェルディナント・リースは楽譜出版者ジムロックに宛てて、こう書いている。「ベートーヴェンはあなたに交響曲を100グルデンで売るつもりです。この作品はこれまでで最大のものであると言っています。最近ベートーヴェンが私にこの作品をピアノで弾いてくれましたが、演奏されれば天地を揺るがすことになるでしょう。彼はこの作品をナポレオン・ボナパルトに献呈することを切望しています」。

リースによれば、ナポレオンが皇帝となると宣言すると、ベートーヴェンは「あの男も俗物だった」と激怒して、「ボナパルト」と書かれたスコアの表紙を破り捨てたという。ベートーヴェンはこの交響曲を結局ブライトコプフ・ウント・ヘルテル社に提供し、その際に「この交響曲のタイトルは本当はボナパルトです」と手紙に書いている。初版譜の表紙には「英雄交響曲 ある偉大な人物の思い出を記念して」と記されることになった。

作品は当時の交響曲の規範を超えて巨大であり、かつてない叙事詩的性格を持つ。初版で作曲者は次のような注意を促している。「この交響曲は通常よりも長大であるため、コンサートの終わりよりも始まってすぐに演奏されるべきである。というのも、序曲やアリア、協奏曲の後で時間が経ってから演奏されると、作品が聴衆に与える独自の効果が失われてしまうからである」。破格の長さで複雑さを持った新作が大きな驚きをもたらすと期待されていたことが伝わってくる。

第1楽章 アレグロ・コン・ブリオ ^{ゆう}雄
^{こん}渾な楽想が英雄的精神を喚起させる。

第2楽章 葬送行進曲、アダージョ・アッサイ ゆっくりとした歩みで英雄の死を悼む悲嘆の音楽。葬列は厳粛に進み、やがて幻影のように淡く消散する。

第3楽章 スケルツォ、アレグロ・ヴィヴァーチェ 中間部トリオでは3本のホルンが決然と戦闘の合図を告げる。

第4楽章 フィナーレ、アレグロ・モルト 旧作で用いた自作主題をもとにした変奏曲。

楽器編成／フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン3、トランペット2、ティンパニ、弦五部